



# 伴走支援と農村RMO

若菜 千穂

特定非営利活動法人  
いわて地域づくり支援センター  
常務理事 / 博士（農学）  
[wakana\\_2005@iwa-c.net](mailto:wakana_2005@iwa-c.net)  
<http://iwa-c.net/>

# 目 次

1. 地域づくりの始め方

階層別の始め方

2. 事例の紹介

イイテンキデスネ～

3. 質疑応答・意見交換



# いわせんの紹介

## ■センターの概要

- ・岩手大学農学部（元）教授が創設
- ・平成17年設立
- ・専従職員3名+代表理事

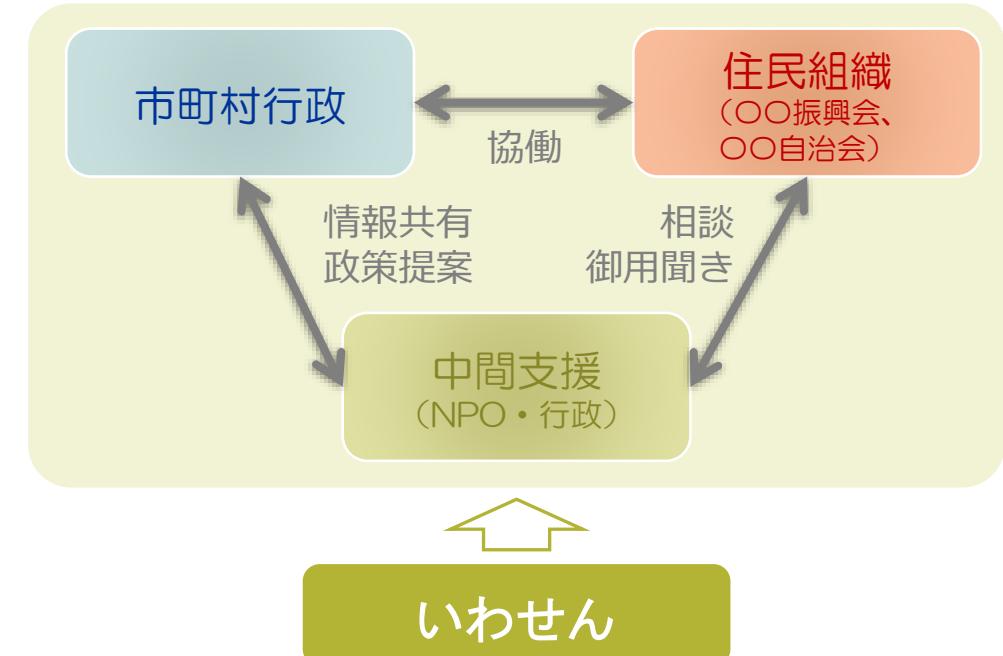
## ■主な仕事

- ・住民主体の地域づくり支援（地域運営組織、農村RMOなど）
- ・農村交通づくり支援
- ・中間支援人材の育成

## ■自己紹介

- ・茨城県取手市出身
- ・大学進学を機に岩手へ
- ・札幌でコンサル後、岩手にリターン
- ・花巻の農村に暮らす

## ➤ いわせんの立ち位置



## ➤ いわせんの仕事の広がり

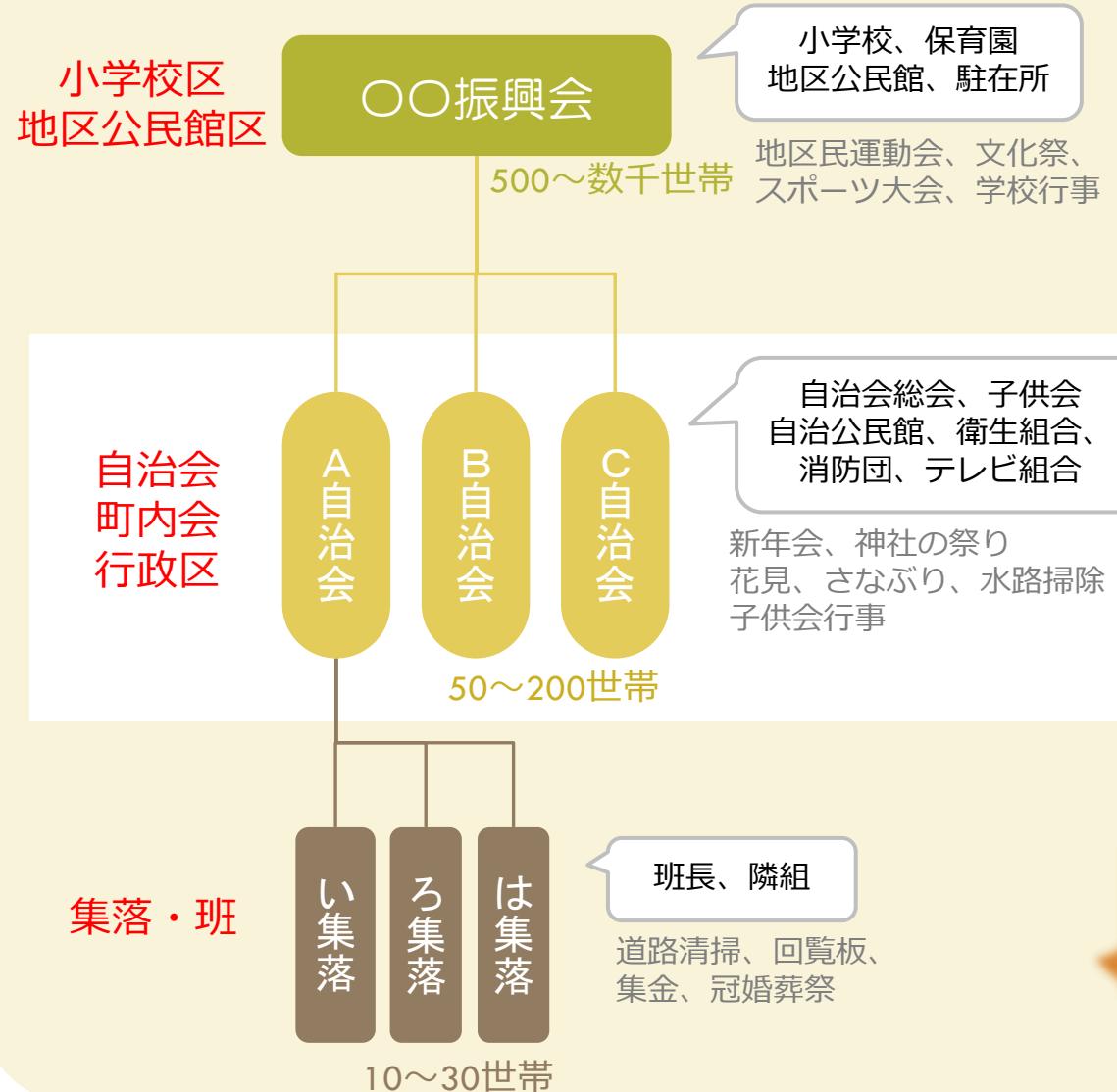




# はじめ方と続け方

階層別の支援

# 農村地域とは ~地域の階層性~

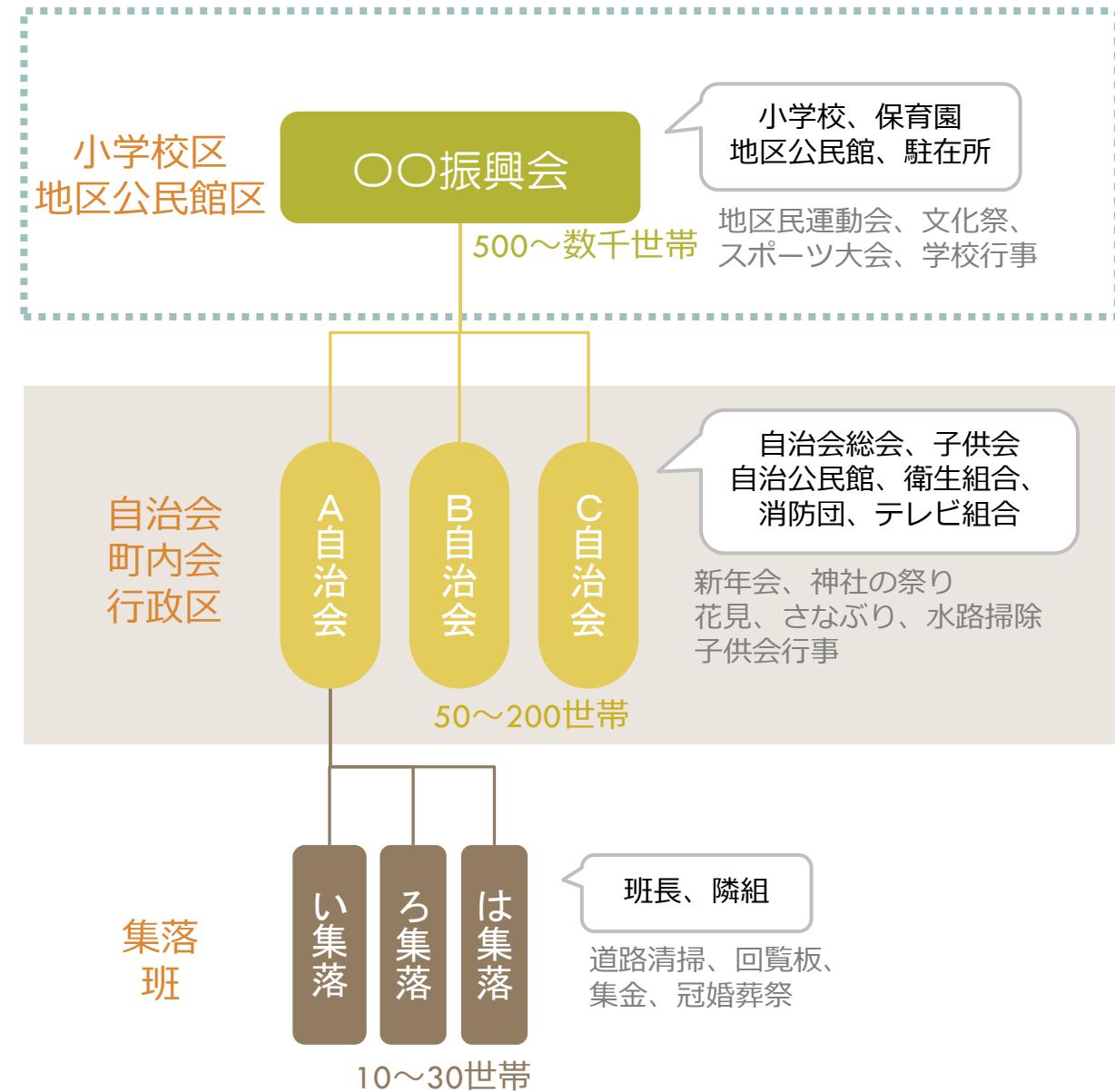


自治会対抗の  
地区民運動会



土水路の泥揚げ

# 2つの地域づくり



自立的・主体的・持続的な  
生活課題の解決

OODA

- \* 空き家、古民家をリノベ
- \* 鳥獣害対策でジビエ
- \* 移動支援 などなど

まずは、

顔が見える関係づくりの復活

PDCA

- \* 楽しい活動の再開
- \* 飲み会、BBQ

# はじめ方支援A ~旧来のコミュニティ/PDCA~

## ■いわせんの支援方法は【3年ひと区切り】

一年目

1. 進め方を決める
2. 地域をみんなで知る
3. 取り組みメニューを決める



二年目

4. 実践をしてみる
5. ふりかえり、改善する



三年目

6. また、実践をしてみる
7. ふりかえり、改善する



いわせんがお客様になれたら合格

### ☆いわせんの理念Ⅰ

“地域づくり”の目標は、  
地域の困りごとを自分たちで  
解決する力が育っている状態

### ☆いわせんの理念Ⅱ

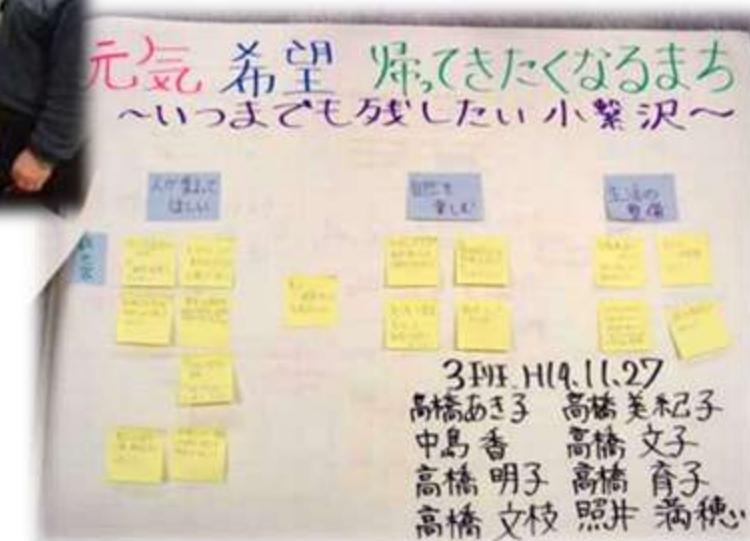
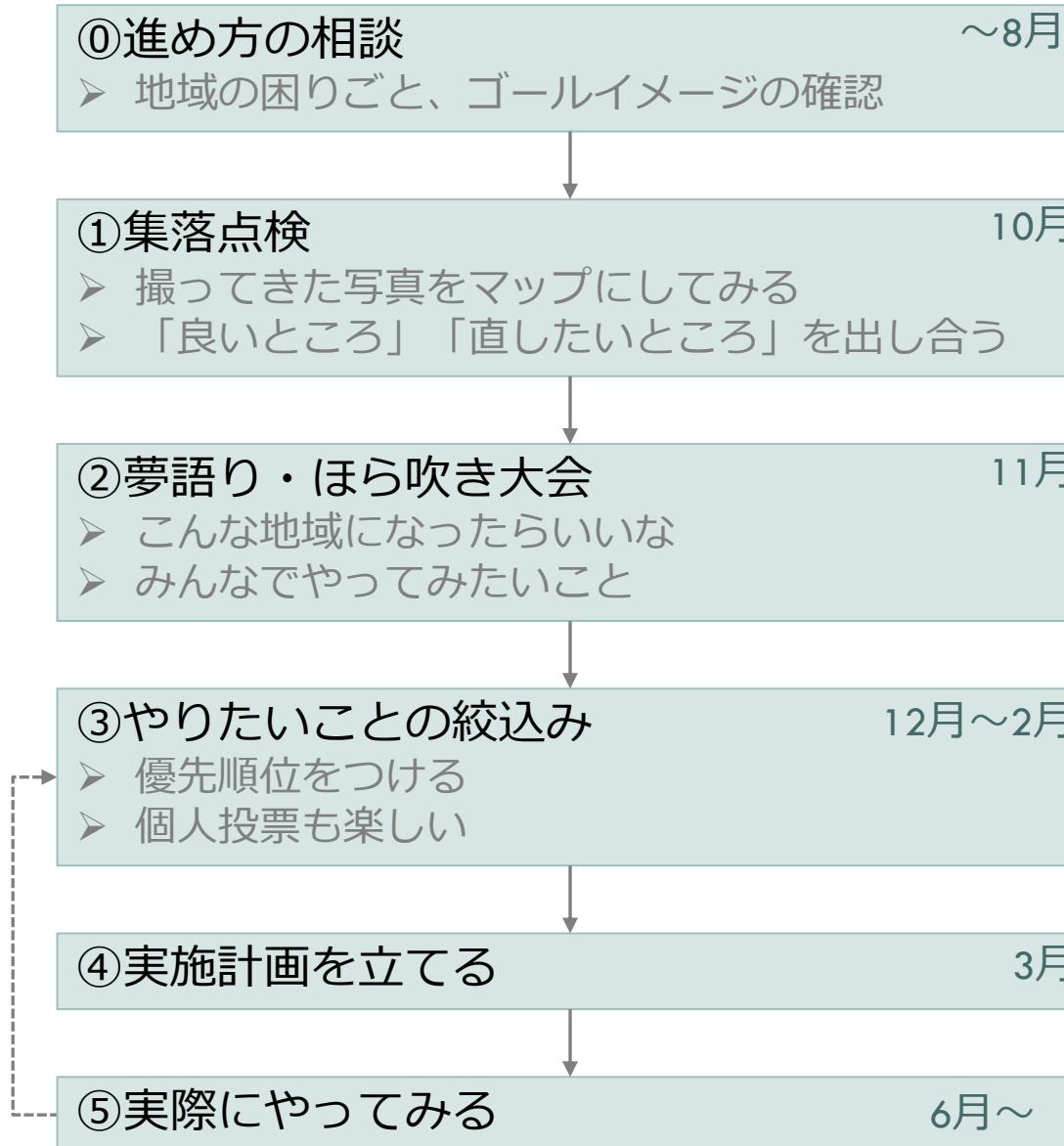
“地域づくり”は  
食べたことない料理

### ☆いわせんの理念Ⅲ

“地域づくり”は  
スポーツと一緒に



# 1年目



# はじめ方のコツ ~集落点検~

■地域をみんなで歩く、見るのが効果的。外の人も一緒に。

## ●集落点検のやり方

- 9:30～10:00 集合・やり方の説明
- 10:00～11:30 集落点検
- 12:00～13:00 みんなで昼食
- 13:00～15:00 お宝カードづくり
- 15:00～ 発表会

**事前準備 :**  
歩いて1.5kmのルートを設定  
チーム分け（地の人と風の人）  
地図、カメラ、画板

**お宝カード :**  
発見したものの概要  
活用や改善方法を考える。

**歩きながらやること :**  
ひとりが「いいね」と思ったものを撮影 → 場所を地図に落とす



# 合意形成のコツ

①進め方の相談 ~8月  
 ▶ 地域の困りごと、ゴールイメージの確認



①集落点検 10月  
 ▶ 撮ってきた写真をマップにしてみる  
 ▶ 「良いところ」「直したいところ」を出し合う



②夢語り・ほら吹き大会 11月  
 ▶ こんな地域になつたらいいな  
 ▶ みんなでやってみたいこと

属性にも配慮  
ほぼ全員参加

(自治会の場合)

- ◆ 同じ場所でテーブルを分けて。
- ◆ それぞれの世代や属性の意見を聞き合う。
- ◆ 世代を超えた“対話”的トレーニング

③やりたいことの絞込み 12月～2月  
 ▶ 優先順位をつける  
 ▶ 個人投票も楽しい

必要に応じて  
全戸アンケート

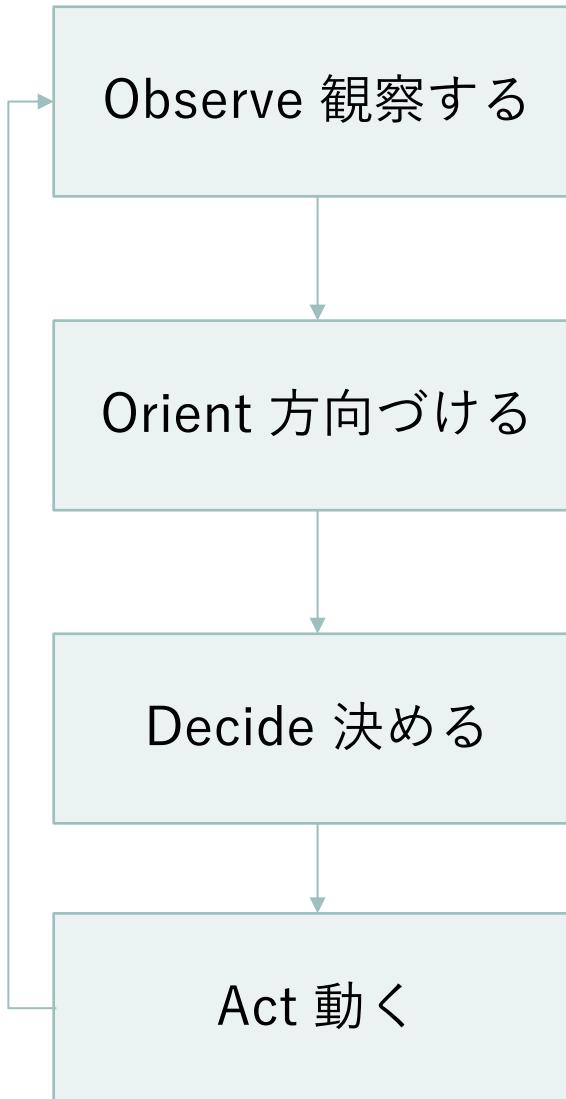
個人投票も効果的

④実施計画を立てる 3月



⑤実際にやってみる 6月～

# はじめ方支援B ~新コミュニティ/O O D A~



- 自治会・団体ヒアリング
- 関係者分析
- 人口推計

- 進め方を決める・合意する
- 集落点検ワークショップ
- 住民アンケートI
- 事業・行事の整理

- 計画づくりワークショップ
- 住民アンケートII

- 組織の改編
- チームでの実践



「人」に注目する。  
関係者分析をきっちり行つたうえで、戦略を練る。

チームでの活動を実施し、やりたい活動だけ参加できる仕組みをつくる。  
LINE等も活用し、自主運営で。

合意をとりすぎない。



行政職員の研修も実施する。

形式的な段取りも必要  
であれば実施する。

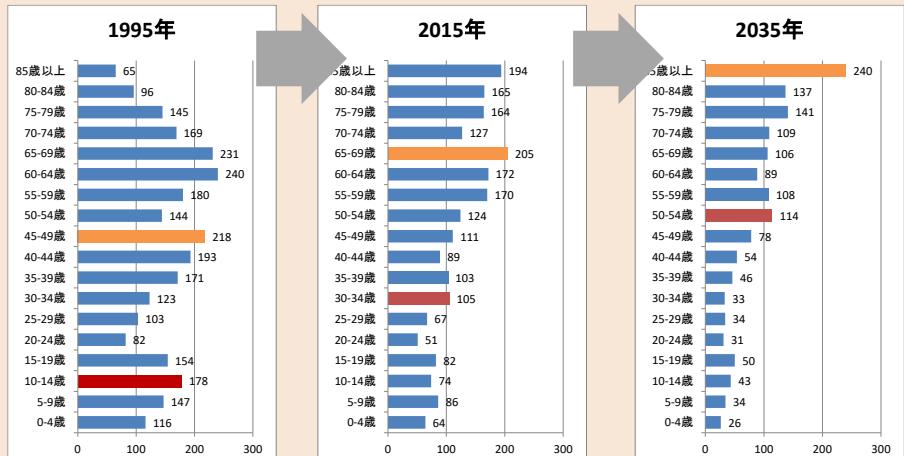
## ■自治会・団体ヒアリング

- 質問表での役員に対する聞き取り

- 自治会費や収支状況
- 役員の種類と人数と謝金
- 年間の行事、なくなった行事
- 青年会や女性部、子ども会や老人クラブなどの有無
- 課題と感じていること など

## ■人口推計

- 今と次の世代の環境違いの理解



## ■集落点検ワークショップ

- 住んでいる人と外の人と歩く



## ■既存の行事・事業の整理

- 年間行事の洗い出し
- 主催者別（動員行事など）
- なくなった行事、新行事
- 時期の重複 など

既存の行事や役職を減らし  
新しいチャレンジができるようにする





# 事例の紹介

奥州市伊手地区

# 奥州市伊手地区の概況

## ● 人口1,581人、637世帯、高齢化率51%、9自治会

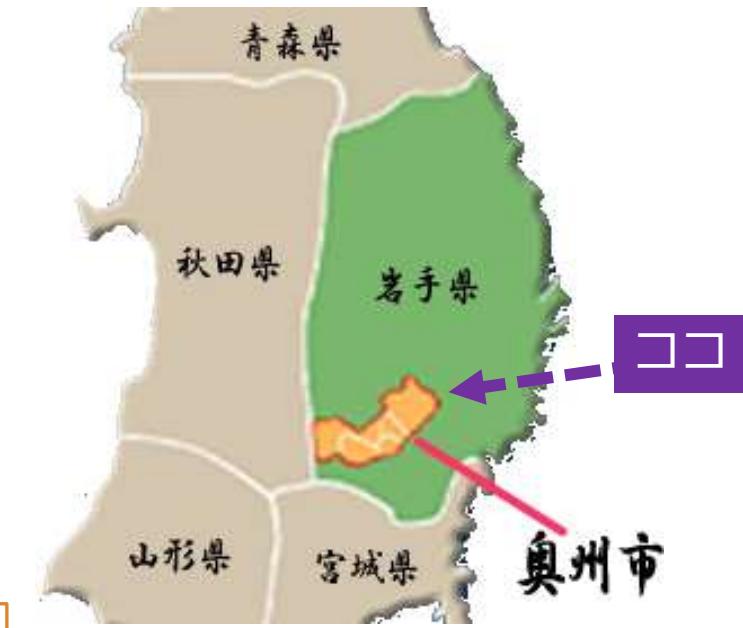
- ・5,000haの広大な面積の67%が山林、農業が主産業（米、和牛、りんごなど）
- ・中学校は昭和53年に閉校、伊手小学校は令和5年3月をもって閉校

## ● 伊手振興会

- ・伊手地区センター（旧地区公民館）の指定管理を受託、専従職員4名
- ・生涯学習事業、地域づくり事業、児童館他



耕地面積 609町歩  
認定農業者 1名  
集積率 10%



# コミュニティ計画の策定から農村RMOへ

- コミュニティ計画の策定
- ていねいな対話の場づくり

R5.3で  
伊手小学校が  
閉校に



小学校跡地で  
農福連携をしたい！

48歳りんご農家

R2.9～

R2.12

第1回  
検討会

R3.1

R3.2

第2回  
検討会

R3.3

R3.5

第3回  
検討会

R3.6

第4回  
検討会

R3.7

第5回  
検討会

R3.10

第6回  
検討会

現状の把握、進め方の検討、人集め

計画策定の趣旨とスケジュールの合意

住民アンケート（全戸）

アンケート結果、地域課題について

伊手振興会理事会で中間報告

若者ワークショップ

伊手振興会事業の棚卸し

これから取り組んだらいいと思う事業

テーマ別事業計画の絞り込み

コミュニティ計画の素案検討

# 令和4年度から農村RMOモデル形成事業をスタート

R4.10～

## ■協議会構成員（受け皿）

- 伊手振興会（住民自治組織）
- 農地・水伊手活動組織
- 伊手中山間連絡協議会
- 株式会社菅野農園

\*事務局：伊手地区センター



閉校した伊手小学校と  
キーパーソンの地区センター長  
境田氏（当時66歳）

## ■活動内容

### 農用地 保全

- 遊休農地活用
- 有害鳥獣対策

今の農地全部は  
守れない

### 地域資源 活用

- 小学校の跡地活用
- 湧水を活用したブランド米づくり

### 生活 支援

- 自家用有償運送
- 有償ボランティアの仕組みづくり



地区センター職員4名と  
農村RMOで雇用した若者1名  
が事務局を担う

# はじめてみたもののうまくいかないことばかり

## ■ 1年目（令和4年度）

### 農用地 保全

- 遊休農地活用
- 有害鳥獣対策

今の米価じゃ、後継ぎなんていない。  
10年後なんて、考えられない。



### 地域資源 活用

- 小学校の跡地活用
- 湧水を活用したブランド米づくり

市「学校は売りたい」  
「ほんとにやれるの？」



### 生活 支援

- 自家用有償運送
- 有償ボランティアの仕組みづくり

他人に頼るほど  
困っている人はいない



# 先に、鳥獣害対策をスタート

## ■ イノシシが着実に北上中

- ・令和3年：目撃情報程度
- ・令和4年：いくつかの田んぼに入る
- ・今 年：田や畔を掘り起こしている場所が増えた

非農家も含め、  
みんなで取り組むべき課題

みんなで取り組む  
小さな成功体験になれば。

有識者を招いて  
有害鳥獣対策の勉強会



これから本格化する  
**イノシシ被害他  
有害鳥獣被害から  
みんなで伊手の農地を守る  
未来を守る勉強会**

参加費無料  
定員 100名  
伊手地区外の方も  
参加可です



令和5年  
**9月12日**  
10:00 ~ 12:00  
伊手地区センター

1. 開会・挨拶
2. 奥州市の有害鳥獣被害の現状
3. 講演：「有害鳥獣対策の最新線」
4. 質疑応答
5. 閉会

主催：伊手農村産業活性化協議会 <事務局 伊手振興会>



野生生物研究所ネイチャーステーション

**古谷益朗氏**

雑木林と野鳥をテーマに活動後、こども動物自然公園や農業技術研究センターで鳥獣害対策を担当。現在は野生生物研究所ネイチャーステーション代表。NHK「ダーウィンが来た！」などに協力。農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー。

# 自動力メラの設置



被害の多い場所で  
カメラが設置できる場所  
探し

カラフルなテープは  
全く効かない。  
なのに、店やJAが売ってる。



埼玉からお招きした  
専門家の先生



# 「けもの大学」に発展

- 毎年4回の講座、地区内外から多くの参加者あり



地区内の手づくり  
電柵視察



シカ肉、イノシシ肉の  
試食

今年度も  
やります！

けもの大学  
OSHU-IDE

けもの大学開校  
オープンカレッジ2025

学んで 実践

有害鳥獣対策に対する知識を学んだり、伊手地区内で実際に実践したりする「けもの大学」。QRコードから、ぜひお申込みください！

今年度新設！

基本コース

昨年度とほぼ同じ内容で今年度も開校！途中からの参加や、昨年度受講者の再受講も歓迎します。

第1回 「鳥獣被害対策の最前線」  
..... 2025年 7月 7日(月) 13:30~15:00

第2回 「正しい侵入防止対策を知る」  
..... 2025年 8月 28日(木) 13:30~15:00

第3回 「けものの生息環境を管理する」  
..... 2025年 10月 23日(木) 13:30~15:00

第4回 「けものの個体数管理を学ぶ」  
..... 2026年 1月 15日(木) 13:30~15:00

スマートコース

今年度はスマート捕獲をテーマに、実践研修を行います！講義の様子はアーカイブ配信も行います。

第1回 「スマート捕獲とは」  
..... 2025年 9月 5日(金) 13:30~15:00

第2回 「スマート捕獲の実践①」  
..... 2025年 11月 13日(木) 13:30~15:00

第3回 「スマート捕獲の実践②」  
..... 2026年 2月 19日(木) 13:30~15:00

場所 伊手地区センター研修室 / 会議室

対象者 けものについて  
学びたい人なら誰でも

申込受付 伊手地区センター

けもの大学 校長  
野生生物研究所ネイチャーステーション  
古谷益朗 先生

野生生物研究の専門家として研修や NHK 番組の撮影協力を行い、農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーも務める。

お申し込みはこちら▶



# 鳥獣被害対策を進める・広げるコツ

くけもの大学(36)

Q & M

## ■全員参加で見える化

- センターに大きな地図を置いて、みんなでシールを隨時貼っていく。
- LINEグループで被害や目撃を共有し合う。





未利用果樹の活用  
→柿ソース  
→おもちゃづくり

地域おこし協力隊  
募集予定！

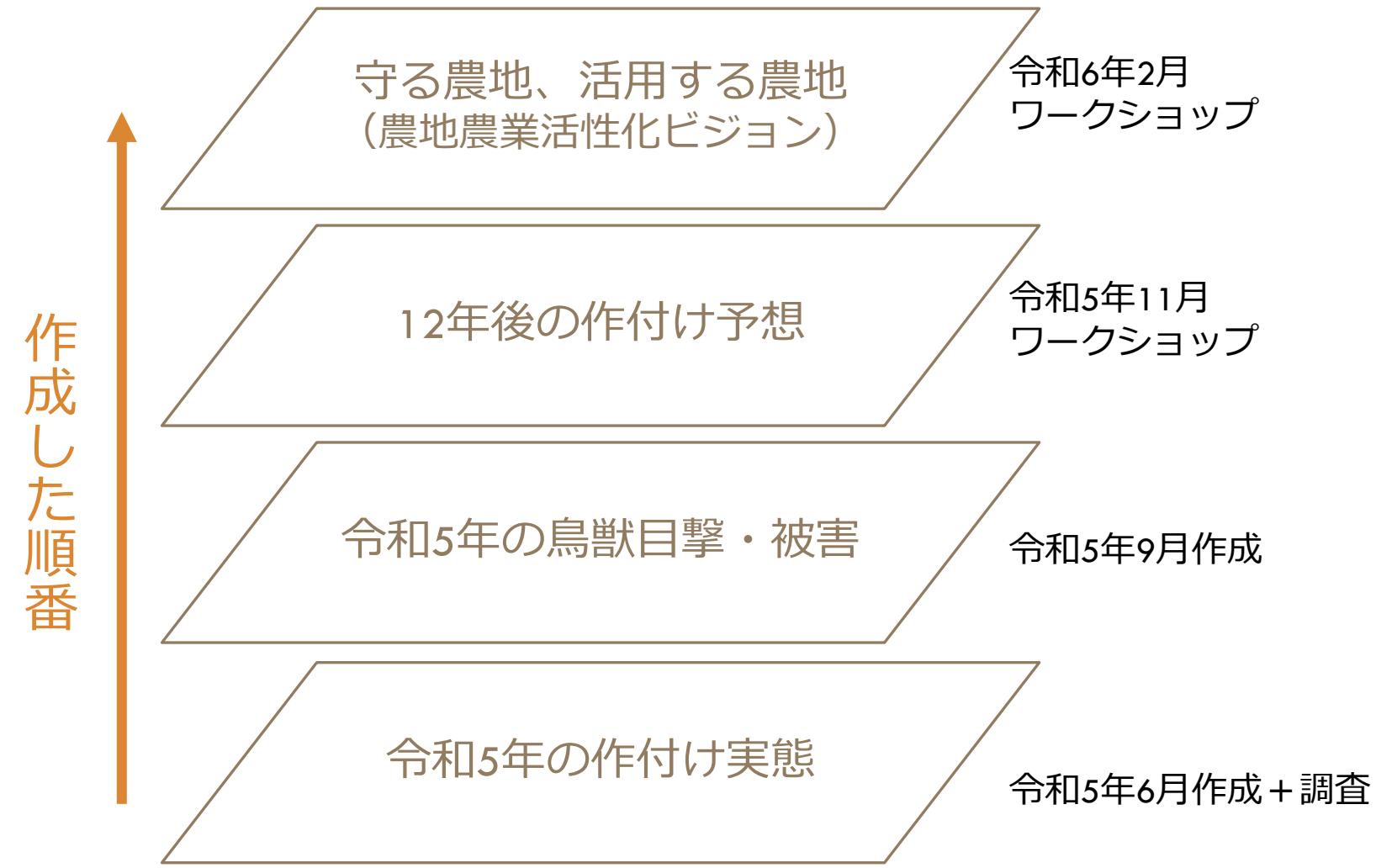
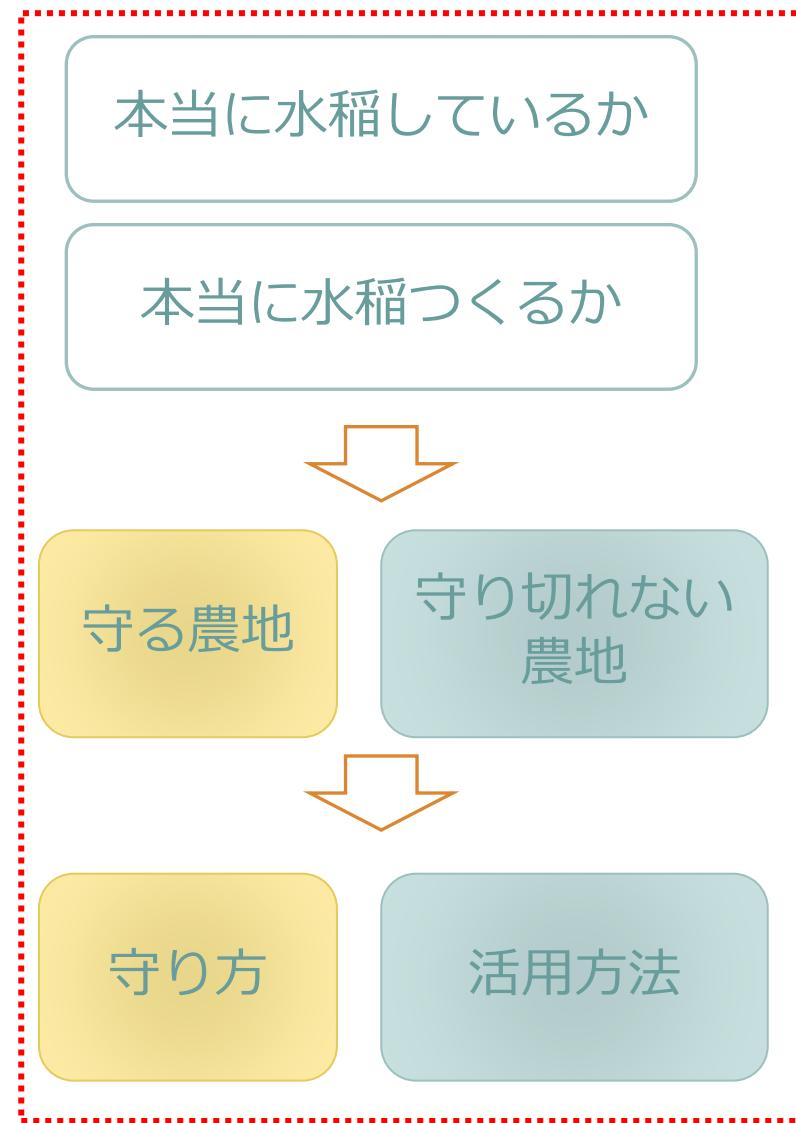
# ようやく、農用地の未来を描く

- 令和5年度の耕作実態を調査 →地図に書く
- 12年後の耕作可能性を地図に書く



# ビジョンのつくり方 ~話し合いの進め方~

## ■やりたかったこと

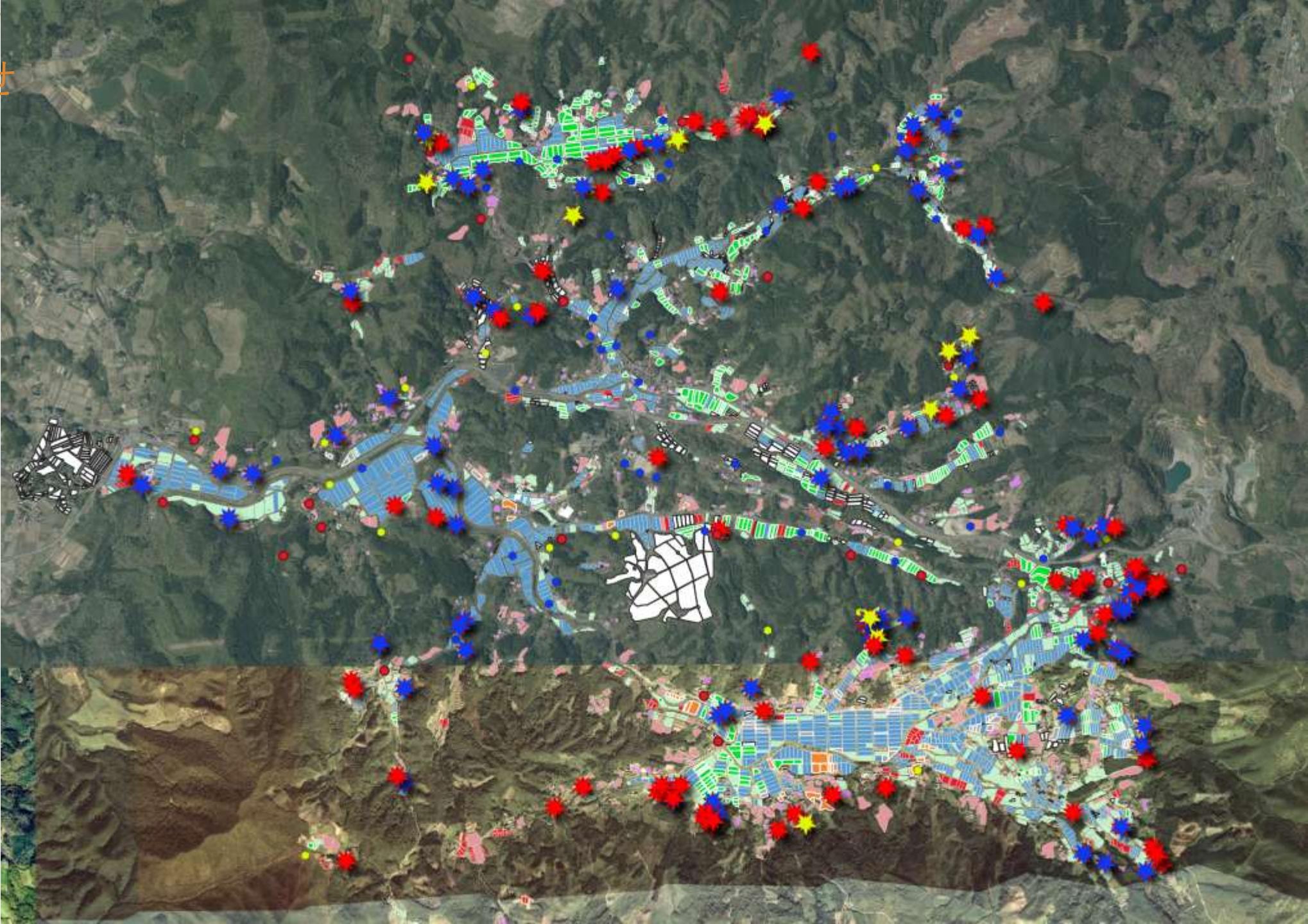




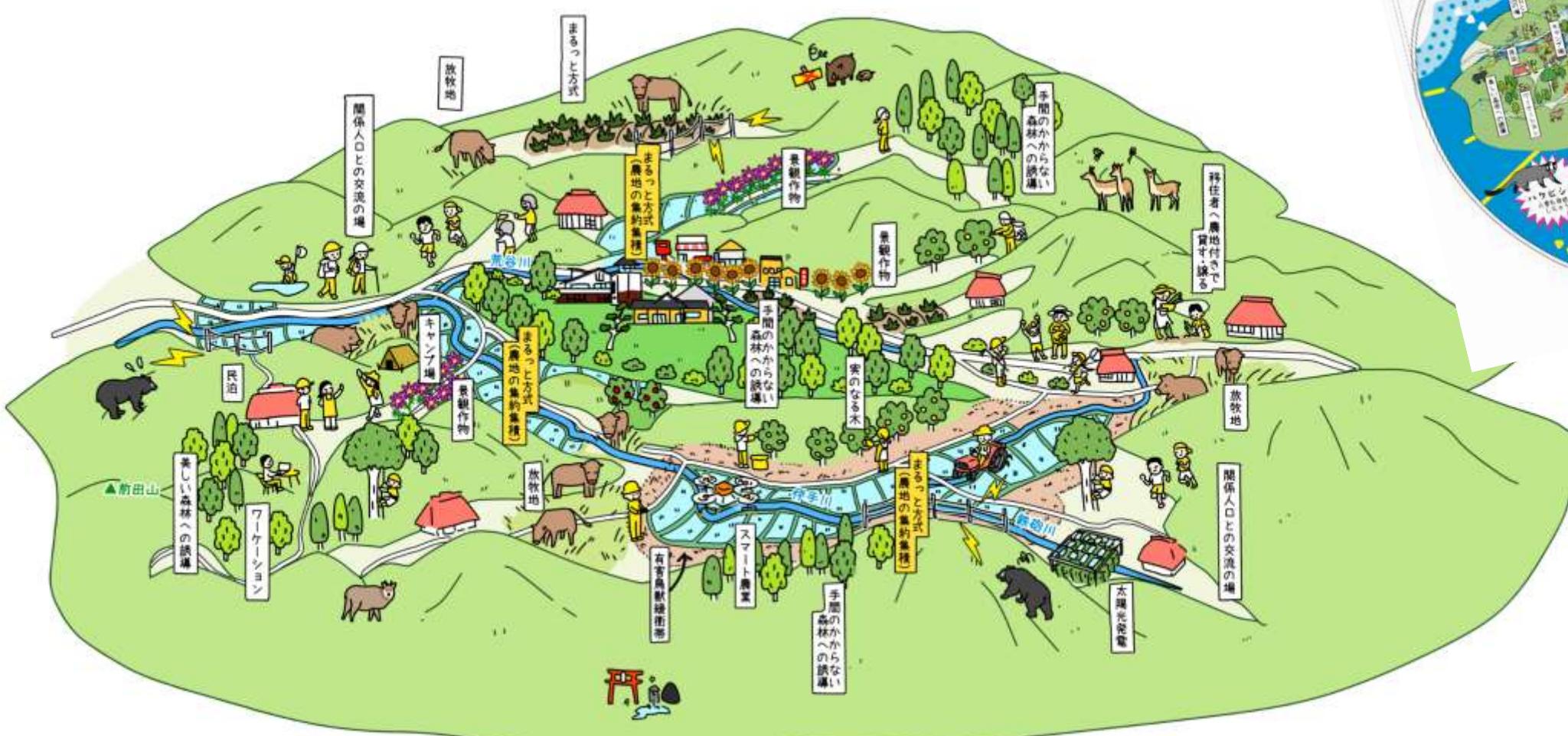
## 図面の重ね合わせ

農用地利用実態	
■	水稻
■	ホール稻
■	転作牧草
■	自主管理
■	放棄田
■	果樹
■	畑地
■	放置畑
■	その他

鳥獣被害	
●	イノシシ見た
★	イノシシ被害
●	クマ見た
★	クマ被害
●	ニホンジカ見た
★	ニホンジカ被害



# 非農家を巻き込むためにイラスト化 →全戸配布



うちわにして  
配布も。

# 守り方・活用の仕方の進化

## 守る農地

- 「地域まるっと中間管理方式」
- 中山間直払いのネットワーク加算取得



## 活用する農地

- ピーカンナッツの植樹



# 地域資源活用 小学校跡地活用

## ■ 1年目：令和4年度

- R4.6 伊手小学校跡地活用検討チーム会議の立ち上げ
- R4.9 奥州市との協議
- R4.10 住民アンケート調査
- R4.10 勉強会
- R5.1 秋田県内3か所へ視察（にかほ、五城目、湯沢）
- R5.2 奥州市へ提言



## ■ 2年目：令和5年度

- R5.7 サマーキャンプ
- ずっと改修工事に関する協議



金子君（28歳）  
神奈川出身、  
秋田県内に2拠点居住

## ■ 3年目：令和6年度

- R6.7 サマーキャンプ
- ずっと改修工事に関する協議

苦し紛れに秋田県内に視察  
に行き、その時に出会った  
若者を伊手に誘う。



# 活動をすると仲間が増える、若者が若者を呼ぶ。



金子氏は仲間の福井氏とともに伊手地区内の空き家を借りて3地域居住



1年目のサマーキャンプに参加した地元の若者が事務局に加わる。



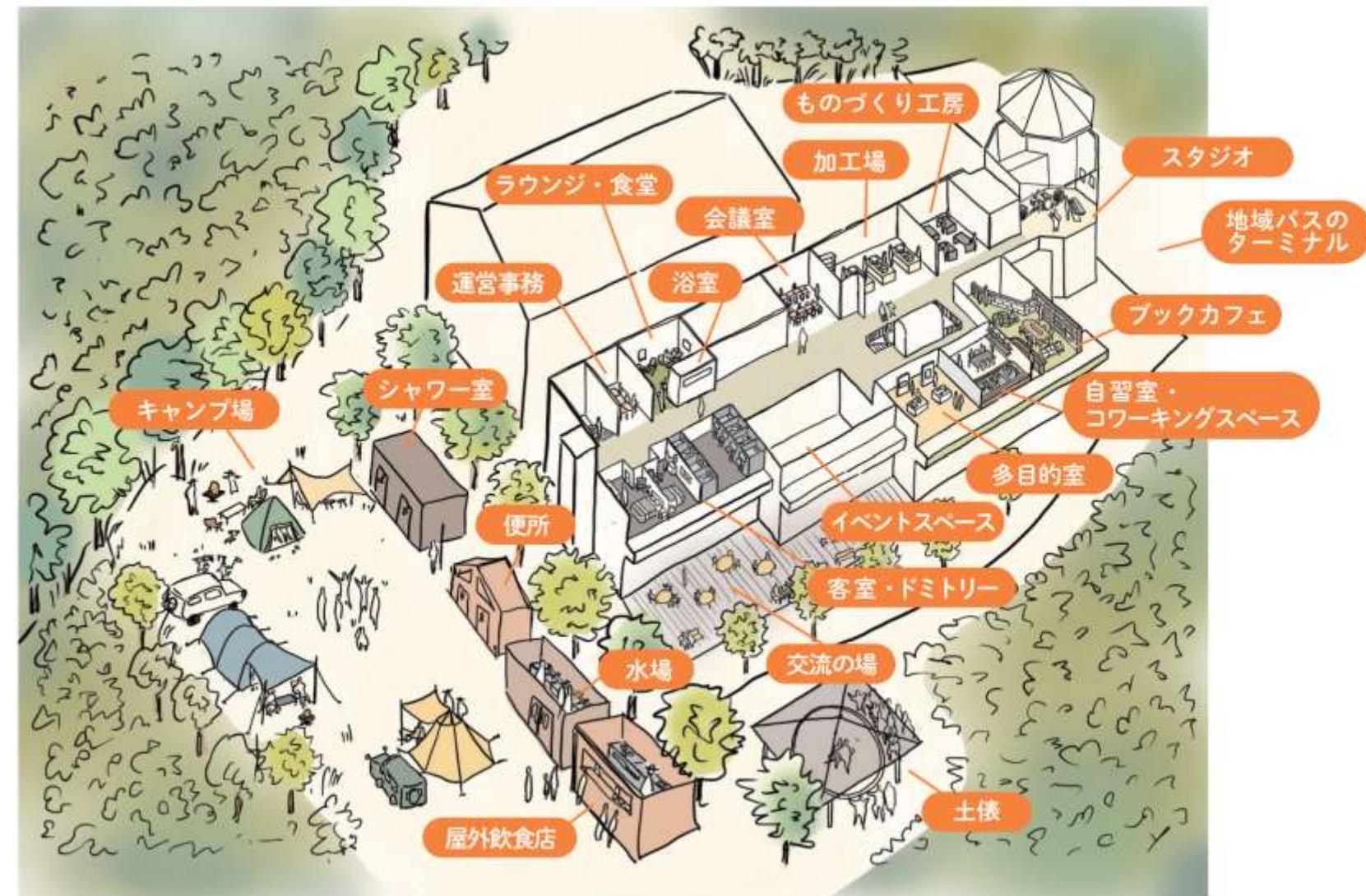
2年目のサマーキャンプ  
昨年の小6がボランティアスタッフとして参加！

# 小学校も修繕し、活用できることに

- 令和7年度中に改修工事
- 令和8年4月から供用開始予定
- 小学校で稼ぐ予定

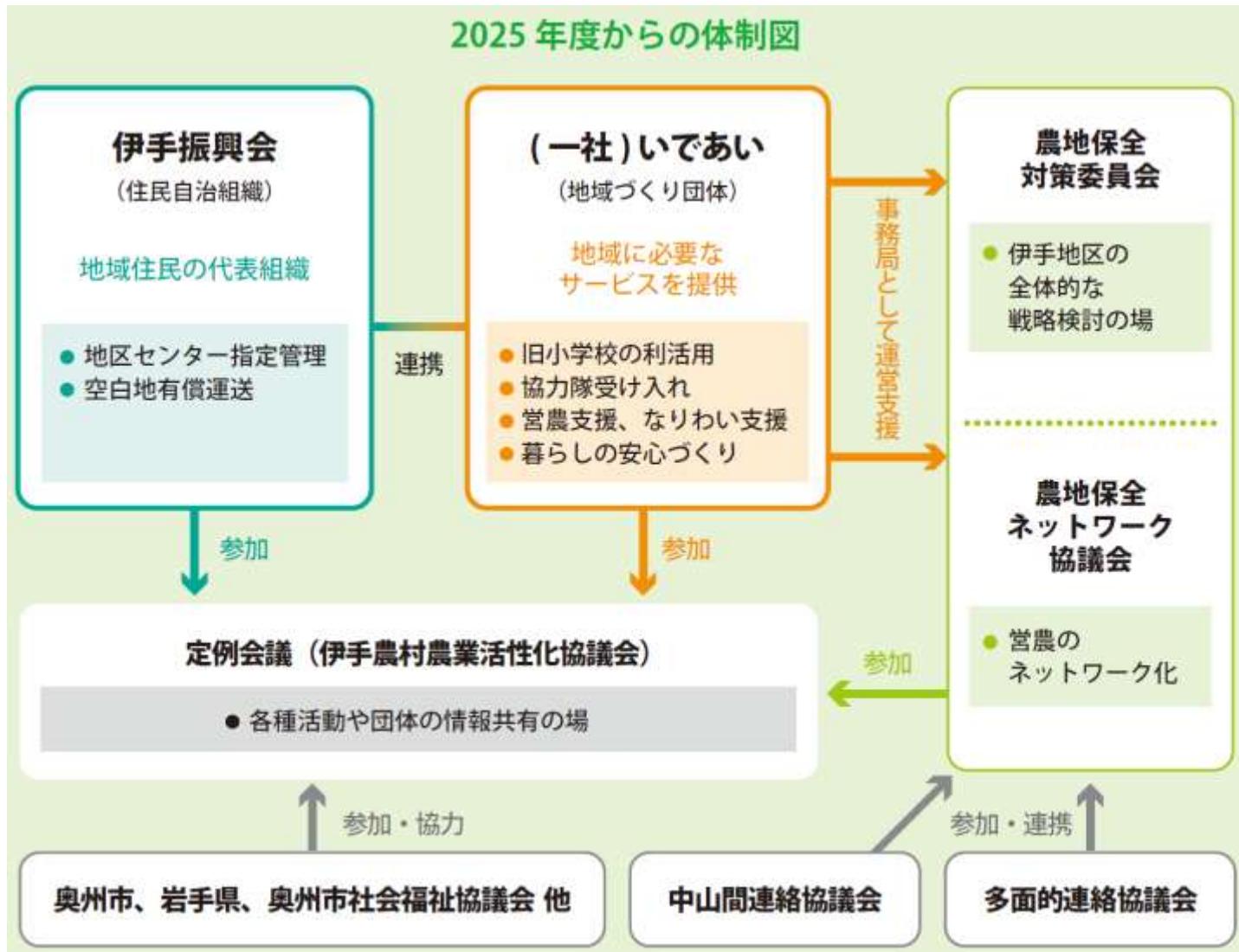


月1回の定例会に市も参加



# RMOの本格稼働

## ■社団法人を立ち上げ、若者も新たに雇用



小学校の2階で収益事業

&

集積農地の管理受託

# 生活支援 ~移動支援~

■令和4年度

- 空白地有償運送スタート

■令和6年度

- 買い物ツアー
- 通院支援

■令和7年1月~

- タクシーの廃業を受け、タクシーアイデアの新しい運行事業スタート
- タクシーの半額で、補助なしで継続可能に。



2025年3月まで  
試験運行

＼伊手の／

## おでかけをお助けする 2つのサービスおためし運用！

貴物や病院へ、自宅から送迎します

貴物したいけど運転が不安…。通院を人に送迎お願いするのは気が引ける。など、伊手農村農業活性化協議会がお助けします！



サービス1 お買い物に！

### いで おでかけサロン

岩谷堂方面のスーパー等をめぐる、  
買い物のための交通サービスです。



運行日 水・木曜日の午後  
(決まった時間・路線を走ります)

行き先 岩谷堂方面の買い物施設  
(薬王堂江別店、イオンタウン江別  
しまむら江別店、サンエー)

利用料金 1回 100円  
(ガソリン代・保険代として)

利用方法 前日15時までに要予約

予約先 伊手地区センター  
0197-39-2121

サービス2 通院に！

### いで 通院支援

車がない、送迎をお願いする人がいない  
人が、通院するための交通サービスです。



運行日 水・木・金曜日の午前  
(1人につき月1回程度)

行き先 奥州市内の病院

利用料金 1回 100円  
(ガソリン代・保険代として)

利用方法 2日前までに要予約  
(事前の会員登録が必要です)

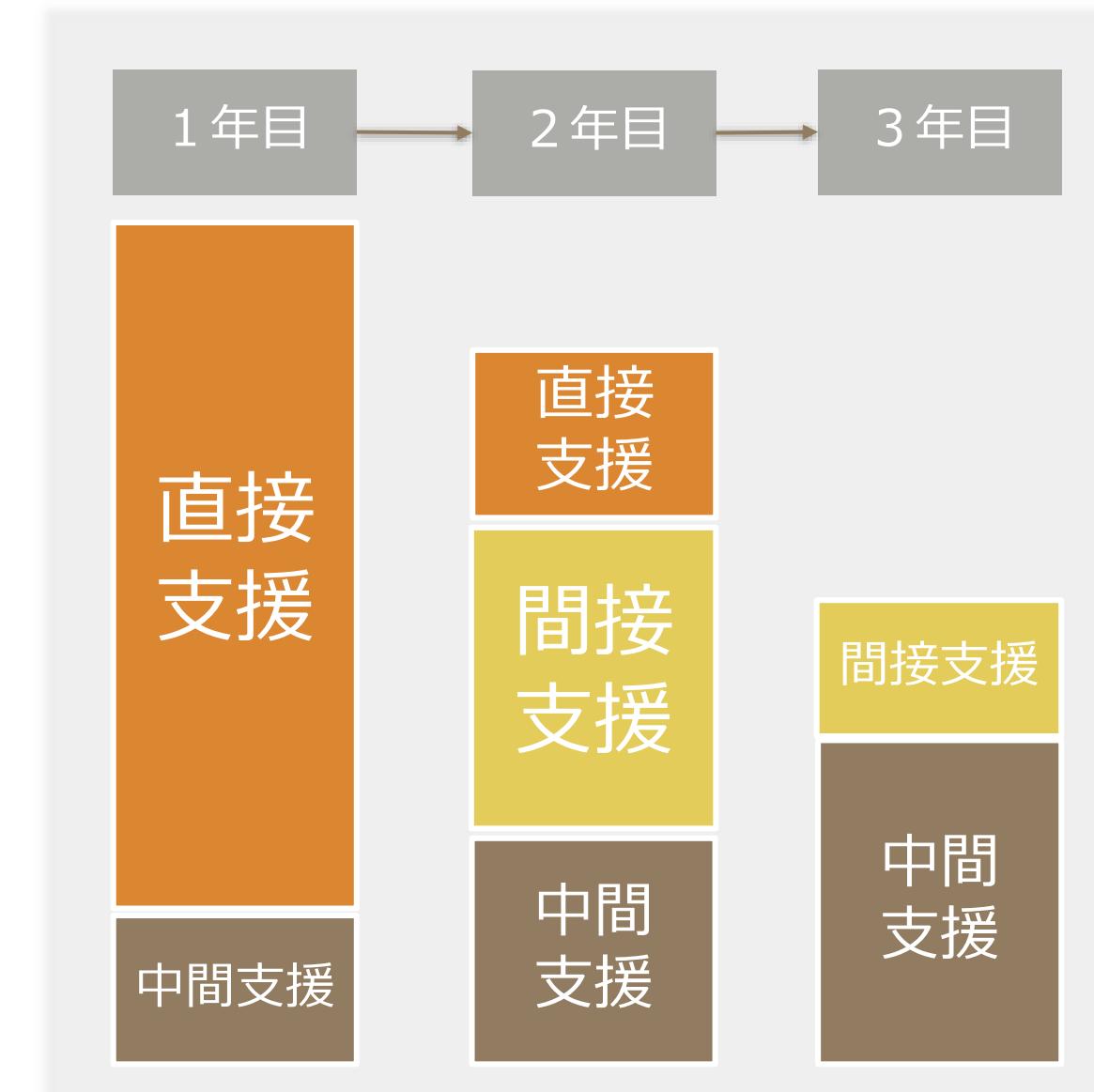
予約先 伊手地区センター  
0197-39-2121

# おわりに～伴走支援とは～

## ■ 3つの伴走支援の方法

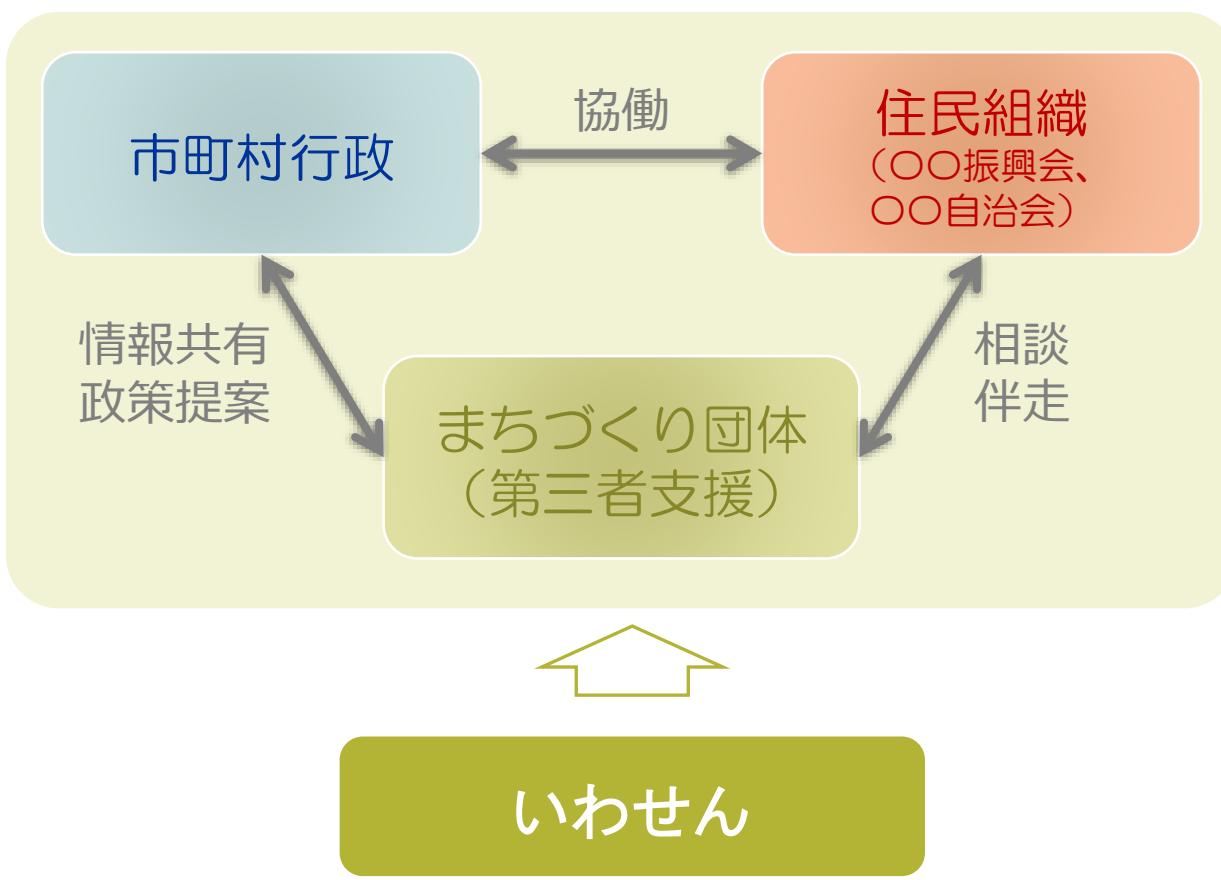


## ■ 支援の流れとメリハリ



# 伴走支援と中間支援

- プレーヤー、各セクターの関係性の向上
- 地域だけでダメなら、外から連れてくる力



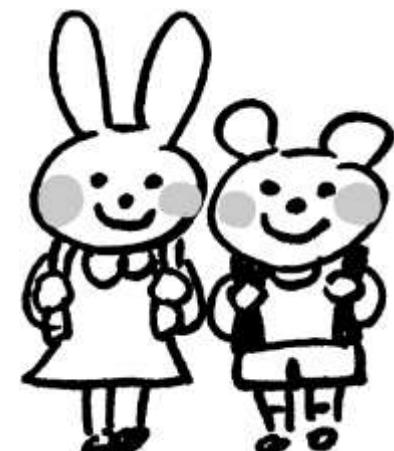
- 地域支援は子育てに似てる

地域によって個性も  
必要な支援が異なる

まずは地域の観察と理解が大切

100点をとることが  
ゴールではない

「生きていく力」を持つことがゴール



手段の目的化に  
要注意！

# 質疑応答・意見交換

## ■①自己紹介

- 名前、地域名、属性（仕事・役割など）

## ■②書く係を決める

## ■③「感想・質問」を順番に話す

## ■④「こんな伴走者いやだ」／「こんな伴走がいいな」 を順番に話す

## ■⑤質問を1つ選ぶ

感想・質問

「こんな伴走者いやだ」  
「こんな伴走がいいな」